

大腸癌研究会プロジェクト研究

「直腸癌術後局所再発に対する治療の最適化に関する研究」委員会 第1回会議議事録

研究代表者 上原圭(名古屋大学腫瘍外科)

日時 第98回大腸癌研究会・2023年1月26日(木)09:00~10:00

場所 浜松町コンベンションホール 5階大ホール B ※会場と Web のハイブリッド形式

出席者：

(現地参加)

相原一紀、安達智洋、池田正孝、伊勢一郎、市原明子、稲田涼、植村守、衛藤護、大友真由子、梶原由規、木村慶、木山茂、小菅誠、小林龍太郎、小森康司、佐伯泰慎、佐村博範、塩見明生、白下英史、杉原健一、杉本起一、杉本晃祐、須並英二、瀧山博年、田中正文、塚田祐一郎、中野大輔、野上仁、服部憲史、肥田侯矢、藤田文彦、矢野琢也、山内慎一、山岡雄祐、山本聖一郎、横山雄一郎、吉満政義

(Zoom参加)

井田在香、岩本哲好、太田竜、岡崎直人、岡村亮輔、木内純、後藤健太郎、澤田紘幸、清水浩紀、須藤剛、高橋広城、中島晋、沼田幸司、濱元宏喜、福長洋介、藤井善章、星野伸晃、平田敬治、舛石俊樹、的場周一郎、安井昌義、山梨高広

(事務局)

上原圭、山東雅紀

【50音順】

【敬称略】

議題 1. 研究背景および目的について

・上原より本研究（後ろ向きおよび前向き研究）の背景や目的について説明した。

議題 2. 後ろ向き研究の概要や収集すべきデータ項目について

・山東より本研究の概要、用語の定義、事前アンケート結果について説明した、また、後ろ向き研究で収集すべきデータ項目の可否について参加者より意見を収集した。

以下、議論の概要を記す。

①藤田先生

プロトコル上、直腸癌術後局所再発の定義が明確でない。

→直腸癌局所再発の詳細な定義を再討議し、プロトコルに記載。

②植村先生

術後合併症に関する詳細な検討は前向き研究での実施を提案。後ろ向き研究ではカルテ記録上検索が難しいと指摘。

③舛石先生

周術期や非切除例の薬物治療情報により、局所再発に対する治療戦略や、局所と遠隔転移と

の治療効果の比較を期待している。

→（福長先生）多施設の判定にバラつきが生じる懸念がある。画像の中央判定が望ましいが、多大な労力を要するため、バランスを考える必要がある。

→（舩石先生）遠隔転移の RECIST 判定は比較的容易だが、局所再発巣の判定は困難が想定される。

→（植村先生）薬物療法が主目的の研究であれば画像を集めるべきと考えるが、集める項目が多すぎると登録が進まない可能性がある。

④瀧山先生

放射線照射例で治療効果判定を行っていないケースが多い。また、重粒子線治療は局所の治療が可能であるため、新たに骨盤内に再発した病巣は新規病巣として認識可能であるが、一般放射線治療では照射範囲が広がるため、新規病巣なのか既存病巣なのか判定が難しい場合がある。

⑤吉満先生

後向き研究のデータベースを作成するために項目の整理を行い、付随研究に必要なデータがあれば、後から収集する方法を提案。

⑦山本先生

共通 CRF と治療別 CRF を提案。

⑧藤田先生

非切除となった理由の重要性を再確認。CRF 作成の一助となる可能性を示唆。

⑩佐村先生

研究目的を具体化することを提案。

→（塚田先生）研究目的を列挙し優先順位をつけることで、収集データの明確化を図ることを提案。

本プロジェクト会議のまとめ

・研究目的の具体化を行うため、プロトコール委員を対象に再アンケート調査を行い、その結果に基づいて主目的および副目的を決定する。主目的および副目的から、必要な収集データを定め、CRF・プロトコール最終案を作成する。次回 2023 年 7 月の第 99 回大腸癌研究会までに症例登録の開始を目標とする。

文責 山東雅紀／上原圭